

千駄谷小と原宿外苑中、猿楽小と鉢山中統廃合中止を

トップダウンやめて、関係者住民の声を聞いて

区は、「新しい学校づくり」整備方針にもとづいて、千駄谷小学校と原宿外苑中学校、猿楽小学校と鉢山中中学校を統廃合して、施設一体型小中一貫校を建設しようとしています。

学校は、地域の教育、文化・コミュニティ、防災の拠点であり、地域のかげがえのない財産です。

トップダウンで統廃合することは、許されません。



**住民への周知は、各中学校のホームページだけ。
住民への説明会もなし…。**

●施設一体型小中一貫校計画の概要

- ・原宿外苑中の敷地に、千駄谷小と原外中の小中一貫校を建設
- ・鉢山中の敷地に、猿楽小と鉢山中の小中一貫校を建設

進行中の学校統廃合・小中一貫校建設計画のスケジュール

2024年度～27年度

2028年度～30年度

①基本計画

②基本設計

③実施設計

④建築工事

現在、建替え準備委員会で検討中

●建替え準備委員会の運営(準備委員会ニュースレターより)

- ・学校長、PTA代表、地域代表、教育委員会事務局ほか10数名
- ・会議は、2カ月に1回程度



■文部科学省の方針にも反しています

国は、児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視し、住民の十分な理解や協力が大切だと指摘。

学校統廃合や施設一体型小中一貫校は必要でしょうか

学校統廃合や小中一貫校には様々な課題があります。ところが、区や教育委員会は、住民の声や関係者の意見に向き合おうとしていません。

準備委員の意見も、「この方向で進める」と切り捨て

準備委員会で出された意見(抜粋)と教育委員会の回答

意見	回答
小中一貫教育校になること、鉢山中中学校敷地にすることは決定事項でしょうか。	この方向で進めていきます。
小中一貫教育校についての説明が地域にされていない。	町会や連合町会で説明した。地域イベントなどに参加して対話の機会をつくる。
(小中一貫校では)中学生が部活動を行うことで、校庭が放課後クラブで使えなくなるのでは。	調整が必要。例えば、時間を区切って4時まで放課後クラブ、その後は部活動で利用。

統廃合や一貫校の必要性、教育効果や統廃合の経験など、住民参加で検証を

必要性	区は、小規模校の解消を目的にしますが、千駄谷小も猿楽小も小規模校ではありません。しかも、小規模校には一人ひとりの子どもに寄り添えるメリットがあります。
教育効果	小中一貫校の教育効果は、「9年間を見通した教育」、「中1ギャップ解消」としてはいますが、本町学園小学校の今年の卒業生91人のうち29人は他の中学校に進学しています。 一貫校では、小学生から中学生に進学する際に経験する、最上級生、卒業、入学にともなう「飛躍」「成長」の機会が失われるとの専門家の指摘もあります。 統廃合によって、児童生徒一人当たりの校庭面積が減るため、部活動や放課後クラブの活動にも影響が出ます。
統廃合した学校では	本町学園では、統廃合後に普通教室や放課後クラブ室が不足し、隣の公園に別校舎を整備しました。 代々木山谷小学校でも、児童数が増えて教室が不足。学校の通学区域を一部変更しました。

学校統廃合・小中一貫校を考える懇談会

●5月24日(土)午後2時～ 日本共産党中央委員会・多目的ホール

●6月1日(日)午前10時～ 代官山アドレス・コミュニティルーム
(代官山町 17-8)

参加費無料、どなたでもご参加いただけます。



日本共産党
渋谷区議団ニュース
2025年5月号
渋谷区宇田川町 1-1
渋谷区役所内
☎3463-1038
FAX5458-4963